日本ホスピス緩和ケア協会
NEWSLETTER ニューズレター
Hospice Palliative Care Japan
No. 19
15.January,2010

日本ホスピス緩和ケア協会事務局
〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 ピースハウス病院内
TEL 0465-80-1381　FAX 0465-80-1382
Website>>http://www.hpcj.org/　E-mail>>info@hpcj.org

# 2010年度年次大会の開催会場が変わります!

## ⇒ アクトシティ浜松（静岡県）
## 2010年7月17日（土）・18日（日）

2010年度年次大会は東海北陸支部担当
（大会長：福井県済生会病院 谷 一彦先生）で、
福井県での開催を予定しておりましたが、大会長の都合により、
会場が静岡県の「アクトシティ浜松」に変更となりました。
なお、日程の変更はございませんが、会場の変更に伴い、大会長を同支部の聖隷三方原病院 井上 聡先生にご担当いただくこととなりました。
半年前の変更連絡となりましたことを、皆様にお詫び申し上げると共に、下記のとおり大会プログラムをご案内いたしますので、ご予定に加えて下さいますようお願い申し上げます。

大会長:井上　聡

## プログラム【予定】

### 7月17日（土）13:00-17:30（懇親会18:00-20:00）

◆大会長挨拶
◆総　会
◆基調講演
「ホスピス緩和ケア協会の当面する課題と中期展望」
◆シンポジウム
「ホスピス緩和ケア協会の役割と今後の活動」
1）ケアの質の評価への取り組みと今後の展望
2）チームアプローチに関する課題と今後の展望
3）医師に対する教育の課題と今後の展望
4）地域緩和ケアにおける協会会員の役割と活動
◆懇親会

### 7月18日（日）9:00-12:00

◆分科会
「各領域において当面する課題と今後の方向性」
1）緩和ケア病棟：ケアの質の評価と向上に向けて
2）緩和ケア病棟：病棟運営の課題とその改善に向けて
3）一般病院における緩和ケア：緩和ケアチームの課題と今後の方向性
4）在宅ホスピス緩和ケアの課題と今後の方向性
◆全体会　－分科会報告と年次大会全体のまとめ－

参加申し込み方法や各プログラムの詳細は、4月上旬にご案内予定です。

**アクトシティ浜松**
〒430-7790
静岡県浜松市中区板屋町111-1
TEL：053-451-1111
http://www.actcity.jp/

**●交通**
在来線／新幹線利用：
JR浜松駅下車。徒歩5分程度。
飛行機利用：
静岡空港 →（バス約30分）→掛川駅
→（在来線約27分）→ JR浜松駅
自家用車利用：
［東京方面から］
東名高速浜松I.C.から約10分
［名古屋方面から］
東名高速浜松西I.C.から約20分

# 理事長新春メッセージ

日本ホスピス緩和ケア協会　理事長　山崎　章郎

昨年は歴史的な政権交代がありましたが、経済状況、社会状況、世界状況など、私たちを取り巻く情勢は、一部に明るい兆しを見せつつも、いまだ混沌の中にあり、先の見えない不安は今も続いております。が、何はともあれ、まずは、皆様とともに、変わらずに巡り来た、新春を寿ぎたいと思います。

さて、当協会が直面しております課題は多々ありますが、本ニューズレターの第６回理事会報告にもありますように、様々な取り組みもなされております。

教育研修委員会の取り組んでおります、教育担当者のための緩和ケア教育セミナーは、当協会が目指す全人的ケアである緩和ケアを実践する人材の育成に携わる教育担当者の養成、という重要な事業です。このセミナーに参加されました皆様が、各支部における教育セミナーで活躍されることを期待いたします。また、緩和ケアを現場で学びたい医師のための緩和ケア病棟における、基本的な医師研修プログラムも用意されつつあります。受け入れ側の緩和ケア病棟も、当然それなりの教育提供水準が求められますが、協会が最も大切にしたいケアの質の向上にも関連いたします。ご協力のほどお願いいたします。

ケアの質に関しましては、評価委員会が継続して取り組んでいる重要課題ですが、日本医療機能評価機構の緩和ケア病棟に関する付加機能評価が改定され、ケアの質を正当に評価できるのであれば、協会と機構の対等かつ是々非々な関係性のもとに、理事など当協会関係者にサーベイヤーをお願いすること、会員施設に付加機能評価の受審を促すことなどの協力も考えております。

在宅緩和ケアは、将来的には、我が国の緩和ケアの基盤になっていくものと考えています。その基本となる「在宅ホスピス緩和ケアの基準」が在宅ホスピス緩和ケア評価基準検討会の度重なる検討の結果、その最終案が理事会で了承されました。今後は未会員で在宅緩和ケアに取り組む診療所や訪問看護ステーションに対し、積極的に会員としての参加をお願いしていきたいと考えております。

質の高い緩和ケアが適切に提供されるためには、ケアを提供する側がきちんと働けることも重要ことです。このたび新設されました健康保険・介護保険検討委員会は、ケアの受け手側、ケアを提供する側、双方の利益を視野に入れ、より望ましい緩和ケアのための医療保険・介護保険の在り方を検討し、関係部局に政策提言していけることを目指しております。

国際的な活動としては、引き続き「アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワーク（APHN）」の一員として、その活動に参加、協力し、国際交流に努めていく方向性が確認されております。

以上の他にも財務基盤の整備、広報活動の充実、支部活動のさらなる活性化など、幾つもの課題がありますが、当協会の定款に掲げております目的達成のために、今年も会員、支持者の皆様、一丸となって前進できればと祈念しております。皆様のご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

# 世界ホスピス緩和ケアデー

WORLD HOSPICE & PALLIATIVE CARE DAY

2009年度のホスピス緩和ケアデー（World Hospice and Palliative Care Day・以下WHPC）には、世界中から69ヶ国が参加し、がんやエイズ、その他の生命を脅かす病気と共に生きる人々のために、ホスピス緩和ケアをサポートするイベントが開催されました。
当協会が参加している「アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワーク」の各国でも、様々なイベントの様子が報告されていますので、一部をご紹介いたします。

【マレーシア】
ボランティアと患者がチームを組み、ボルネオ国際マラソンに参加

【香港】
「Life On The Train Exhibition（生命探索之旅）」をテーマとした企画展

【インド】
WHPCのロゴ入りTシャツを着たライダー達による町中のバイク走行、プラカードを持った病院スタッフによるウォーキング等

各国の報告の詳細は、世界ホスピス緩和ケアデーのウェブサイト（http://www.worldday.org/）をご覧下さい。

2009年度
# ホスピス緩和ケア週間 実施報告

2009.10.4[sun]-10[sat]

日本ホスピス緩和ケア協会では2006年度より、「世界ホスピス緩和ケアデー（World Hospice and Palliative Care Day)」を最終日とした一週間（2009年度は10月4日～10日）を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示及びセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいます。
また、厚生労働省が2007年度より日本緩和医療学会に委託している「緩和ケア普及啓発事業」（オレンジバルーンプロジェクトとして活動）に、日本死の臨床研究会、日本ホスピス在宅ケア研究会、日本がん看護学会、日本緩和医療薬学会、日本サイコオンコロジー学会とともに参画し、昨年に引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通して、事業に協力いたしました。
本年度は、全国の協会会員およびがん診療連携拠点病院、緩和医療学会の会員より、講演会やパネル展示など78の企画が寄せられ、一般市民、医療関係者など約11,000名の参加がありました。
なお、今年は、歌声で世界を結ぶ「Voices for Hospices」の開催年とも重なり、「ハレルヤ」合唱に参加されたとの報告も各地から届きました。
企画をお寄せいただいた皆様には厚くお礼申し上げますと共に、下記の通り今年度の実施状況を報告します。

## ［当日の様子］ 各企画より提出された写真の一部をご紹介します。

▲パネル展示
【札幌南青洲病院／北海道】

▲ハレルヤ合唱
【聖路加国際病院・
ピースハウス病院共催／東京都】

▲医療者向けの勉強会
【東邦大学医療センター大橋病院
／東京都

▲落語会
【名古屋医療センター／愛知県】

▲一般市民対象の公開講座
【滋賀県がん診療連携協議会緩和ケア
推進部会（※）／滋賀県】

▲病院職員によるコンサート
【彩都友紘会病院／大阪府】

（※）滋賀県がん診療連携協議会緩和ケア推進部会：滋賀県がん対策推進計画に基づき、滋賀県立成人病センター（事務局）、彦根市立病院、大津市民病院、ヴォーリズ記念病院他、医師会、患者会、行政担当者等で構成された部会

## 企画内容　※1つの登録企画内で複数の企画開催有

| | |
|---|---|
| ①一般向けの講演会・フォーラム | ３８ |
| ②医療従事者向けのセミナー・研究会 | ９ |
| ③ロビー・お茶会等でのコンサート | ２３ |
| ④チラシ・オレンジバルーンの配布 | １２ |
| ⑤緩和ケア相談コーナーの設置 | １１ |
| ⑥ホスピス緩和ケア関連のパネル展示 | ８ |
| ⑦緩和ケア病棟見学会 | ７ |
| ⑧音楽療法・マッサージ等の体験 | ５ |
| ⑨緩和ケアに関するＤＶＤの上映 | ５ |
| ⑩遺族会・他病棟との職員懇親会等 | ４ |
| 合　計 | １２２ |

## 参加者内訳

一般市民・患者・家族・学生・行政関係者・医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・理学療法士・チャプレン・ケアマネジャー・栄養士・音楽療法士・臨床心理士・事務員・介護支援専門員・ボランティア　他

**合　計：11,065名**

## 企画参加施設種別

**協会会員５５施設　／　会員以外２２施設**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ［内訳］ | 協会会員 | 緩和ケア病棟 | ３６ |
| | | 緩和ケアチーム | ３ |
| | | 一般病院 | ８ |
| | | 診療所 | ４ |
| | | 準会員(法人/個人) | ４ |
| | がん診療連携拠点病院に関して | | |
| | | 協会会員 | １２ |
| | | 非 会 員 | ９ |

## 2010年度世界ホスピス緩和ケアデー＆ホスピス緩和ケア週間

2010年度の「世界ホスピス緩和ケアデー」は、10月9日（土）、テーマは**「Sharing the care」**です。
「ホスピス緩和ケア週間」は世界ホスピス緩和ケアデーを最終日とした、10月3日（日）～10月9日（土）の一週間を予定しています。
詳細については８月頃にご案内いたしますが、皆様には引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通した啓発・普及活動にご協力下さいますようお願い申し上げます。

▲3病院の合同展示・相談会
【姫路聖マリア病院･姫路医療センター･姫路赤十字病院共催／兵庫県】

▲患者・家族の緩和ケアサロン
【新国内科医院／兵庫県】

▲フォーラム後の緩和ケア相談
【松山ベテル病院／愛媛県】

▲緩和ケア病棟見学会
【公立みつぎ総合病院／広島県】

▲街頭でのチラシ配布
【佐世保中央病院･佐世保市立総合病院共催／長崎県】

▲カラーテラピー体験講習
【琉球大学病院／沖縄県】

各企画から提出いただいた報告書は、協会ホームページに掲載していますのでご覧下さい。

# 教育担当者のための
# ホスピス緩和ケア教育セミナー参加報告

**「教育担当者のためのホスピス緩和ケア教育セミナー」**は、各地域および会員施設における緩和ケアの質を保障するために、 緩和ケアの教育能力を高めることを目的とした２日間のセミナーです。
当協会では、これまでも会員施設を対象とした教育セミナーを開催してまいりましたが、当セミナーは各支部における地域ネットワーク（緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケア、がん診療連携拠点病院）を意識しており、対象を各地域または会員施設で緩和ケア教育を担当されている医療者（職種不問）とし、ファシリテーターガイドを付けることで、受講者が地域に戻った際に、教材を利用したセミナー等の開催ができるような内容となっています。
主なプログラムとしては、１）疼痛緩和（事例検討）、２）コミュニケーションスキル：ロールプレイによる研修、３）家族のケア、４）地域との連携～地域ネットワークの作り方～となっており、2009年度からは、セミナーの内容を支部会などで積極的に活用していただけるよう、支部教育担当者の参加枠（各支部１名）を設けました。
2009年度、支部教育担当者としてセミナーを受講された方々の報告を以下に紹介します。
なお、支部代表者の教育セミナー参加に関する経費は、協会への寄付金の一部を使用させていただきました。

## 教育担当者のためのホスピス緩和ケア教育セミナーに参加して

参加日：2009年10月24日・25日
報告者：蛭田　みどり（ケアタウン小平訪問看護ステーション／関東甲信越支部幹事）

「まずは参加者の一人として参加してください。最後に教育者・ファシリテーターとして。」と高宮先生の挨拶と研修に参加するにあたってのアドバイスから研修が始まりました。

**①講義の内容から学んだこと**

１日目の『講義のコツ』では、資料の作り方や、ビデオや手紙など、自分自身が感動した内容で五感を刺激することなどが印象に残りました。『疼痛緩和』では、職種が違う人たちで協力し合いながらグループワークを進めていくことで、ホスピス・緩和ケアの基本となるチームケアを学ぶ良い機会となりました。『コミュニケーション』では、ロールプレイのポイントについてまず説明を受けました。ロールプレイは多くの人が苦手とすることだと思いますが、良かったことを伝えることで、逆に自分の傾向や不足していた点を気づくことができることがわかりました。「人は失敗から学ぶのではなく、失敗を改善することから学ぶのである」というウィリアム・グラッサーの言葉を紹介されて、その言葉に励まされて勇気を持って行うことができました。

２日目の『家族ケア』では、家族のありのままを理解することから始まること、チームで関わることの必要性を再認識することができました。また、自分自身にとっての家族を改めて見つめる機会ともなりました。『地域との連携』では、地域も働く環境も違う人たちと話し合うことで、それぞれが抱える問題を出し合ったり、違う解決方法を見出すきっかけになりました。

**②教育者として・ファシリテーターとして**

ファシリテーターの方々は、参加者一人一人の意見を丁寧に聞いていました。そしてグループで方向性が見つからず困っている時にタイミングよく的確なアドバイスをしてくださいました。一人が意見を言った後や自己紹介が終わった後に必ず全員で拍手をしましたが、司会者、ファシリテーターが拍手を行うことで、参加者も自然に手が動き、それは全体の緊張がほぐれ、誰もがあったかく受け入れられているという雰囲気が溢れる場になることを身をもって体験できました。また、それぞれのセッションの最初にアイスブレイキングを行うことは、初対面の人たちとグループワークを進めていくときにとても有効でした。

今回のセミナーでファシリテーターの役割の大きさを再確認できました。さらに、知識はもちろん、ホスピスケアの基本はチームケアであることと、相手を思いやることのできる人間性や感性を日ごろから磨くことが、いかに大切かを実感することができました。

今回このような機会を与えてくださった日本ホスピス緩和ケア協会関東甲信越支部の皆様に感謝いたします。今後、地域での勉強会や研究会で、地域でのネットワーク作りに微力ながら力になれればと思います。
ありがとうございました。

セミナーの様子

グループワーク

## 教育セミナー参加後の中国支部における教育に関する報告

参加日：2009年５月23日・24日
報告者：石原　辰彦（岡山済生会総合病院　緩和ケア担当主任医長／中国支部幹事・教育担当）

私は中国支部幹事（教育担当）として５月23日・24日に昭和大学で開催された「教育担当者のためのホスピス・緩和ケア教育セミナー」に参加しました。その後の中国支部における教育活動やセミナー内容の活用状況、また今後の教育プログラムの予定などについて報告します。

中国支部としては年１回の支部大会を開催し、支部会員のホスピス緩和ケアに関する質の向上及びネットワークの構築を図っております。今年度は９月12日・13日に岡山市において支部大会を開き、質の向上のための教育として、12日に教育講演（静岡がんセンター心理療法士　栗原幸江先生による「家族ケア」）、13日にワークショップ「家族ケア」を実施しました。

13日のワークショップ「家族ケア」には51名が参加し、教育セミナーの同プログラムを用いて午前９時より約３時間をかけ、グループ討論とロールプレイを通して学びました。目標は、家族をあるがままに捉えることを理解することと、家族を支援するために多職種チームで目標と方法を共有し協働することを体験しその重要性を理解することの２点としました。参加者からは「講演とワークショップが一体となっていて、とても内容の濃いプログラムでした。」「多職種で行うワークショップ、グループワークはいいですねぇ！」「知識と元気を充電して、帰途に着くことができました。」などポジティブな感想をいただきました。

ワークショップ形式は、参加者が能動的になり、また臨床に応用しやすく、学習の効果が高いと言われています。特に多職種で行う利点として、お互いの専門性を生かし、相互にサポートし合えることがあります。協会の教育セミナーでは、ワークショップ形式で行える様々なプログラムを学ぶことができました。今後も年に１回の支部大会で、他の幹事の方の協力をいただきながら、この教育セミナーで学んだ方法を実施していくことで、会員施設で行われる緩和ケアの質の向上に役立ちたいと考えております。

## 2009年度教育担当者のためのホスピス・緩和ケアセミナー（於 昭和大学）に参加して

参加日：2009年５月23日・24日
報告者：矢津　剛（矢津内科消化器科クリニック　院長／九州支部幹事）

2009年５月23日24日のセミナーに受講者として参加させていただきました。セミナーにはファシリテーターの先生方を含め、58人が参加し多くは医師、看護師の構成で一部薬剤師、ＭＳＷ、ケアマネージャーの多職種の参加があり、高宮有介先生や田村恵子先生をはじめとするファシリテーターの先生方の的確なご指導のもと、時にはユーモアを交えながらの講義と周到なシナリオに基づくロールプレイにより、改めてワークショップ形式の研修会の重要性を感じることができました。また、がん対策基本法制定後特に課題となっている地域ネットワーク作りのテーマも加味され、地域住民との交流まで視野に入れた幅広い内容となっておりました。

さて、九州支部（下稲葉康之代表）では連絡協議会の時期の2001年より毎年５月に一日がかりで２００人から２５０人の参加者を集め、年次総会とともに教育セミナーと職種別グループワークを９年連続開催しております。基調講演に続く講義形式教育セミナー、職種別グループワークのテーマは「症状コントロール」「精神的支援」「家族ケア」「グリーフケア」「チームアプローチ」「スタッフケア」「デイホスピス」「在宅ケア地域連携」「スピリチュアルケア」「病棟運営」など多岐にわたり、職種別あるいは多職種グループワークでは毎回困難事例の苦悩や医療介護システムの改善点などにつき熱い討論がなされてきました。

今回、協会本部の教育担当者セミナーを受講し、2010年度の九州支部教育セミナーにもコミュニケーションスキルアップとして実践的なロールプレイの導入を、協会本部の先生方の御力を借りて企画する予定です。課題としては①二日がかりであり、また１００人以上の参加は不可能である点から、年次総会以外の日程を必要とする。②ファシリテーターの確保と事前研修が必要である。③対象者が医師看護師だけでなく薬剤師、ＭＳＷやケアマネージャーなど福祉関係者、保健師などの多職種も視野に入れ、在宅ケア・経済的問題・がん拠点病院や一般病院との連携・がん以外の疾患・インフォーマルケアのテーマも含め、多様性のあるシナリオ作成が必要であります。他者の「こころ」に共感しつつ、受け身の立場だけでなく地域のノウハウの共有が図られるような研修会の企画を、他の支部の皆様にも参考になるよう鋭意作成中であります。

# 第６回理事会報告

2009年12月５日（土）、東京国際フォーラム会議室にて、第６回理事会が開催されました。以下に主な内容をご報告いたします。

## 会員状況

2009年７月以降の新入会、退会の報告を受けて、11月15日現在の会員状況は以下の通りである。

※（　）内は４ヶ月間の増減数

| | |
|---|---|
| **【正 会 員】** | |
| 緩和ケア病棟入院料届出受理 | 195施設（0） |
| 緩和ケア診療加算届出受理 | 23施設（0） |
| 一般病院 | 66施設（+5） |
| 診療所 | 37施設（+2） |
| **【準 会 員】** | |
| 施設・団体 | 21施設（0） |
| 個人 | 37　名（+3） |
| **【賛助会員】** | |
| 法人 | 14法人（0） |
| 個人 | 39　名（-3） |

なお、「緩和ケア病棟入院料届出受理施設」数は、上記以外に、当協会に他の区分で入会している５施設、当協会未入会の8施設があり、11月30日現在、全国で208施設（4076床）となっている。

## 委員会活動

### ◆教育研修委員会

**１．多職種教育セミナー**

１）教育担当者のための緩和ケア教育セミナー

当セミナーは、参加者が学習内容を持ち帰り、支部や地域でセミナーを開催することを目的に行ってきたが、来年度は、中央での開催ではなく、支部で開催される教育セミナーを、教育委員が応援する形で実施する予定である。

**２．職種別教育**

１）看護管理者向けセミナー

以前、看護管理者向けのセミナーを開催したことがあるが、人事異動等で人の入れ替わりもあるので、2010年度から準備を始め、2011年に新しい形で開催する予定である。

２）ソーシャルワーカーの教育セミナーについて

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の助成を受け、今後も継続して開催していく。

**３．緩和ケア病棟での医師研修について**

各学会から協会に研修場所の提供依頼があることや、施設基準でも研修の実施が挙げられていることなどから、協会で準備していく必要がある。

検討部会より提示された中間報告を元に討議した。現在検討中のプログラムは、①緩和ケア病棟での実地研修を主体とし、緩和ケアの基本を学ぶものであること、②専門医を対象とするものではなく、地域で活動する医師や、緩和について学びたいと考えている方々を対象とするものであることが確認された。各施設で活用できる基本プログラムの作成を目指し、2010年度年次大会には提示できるよう作業を進めることとする。

### ◆評価委員会

**１．医療機能評価の付加機能評価**

日本医療機能評価機構の評価事業には付加機能評価として、救命救急、リハビリテーション、緩和ケアがあり、今回、救急と緩和ケアについて、改定作業が行われることとなり、当評価委員会の志真泰夫委員長、小野充一委員が緩和ケアに関する改定作業に協力している。また、池永昌之氏（淀川キリスト教病院）、金井良晃氏（新座志木中央総合病院）、柏谷優子氏（東京医科大学病院）も作業に参加しており、３氏の当協会評価委員への就任が了承された。志真委員長より、緩和ケア付加機能評価の課題として、①専門サーベイヤーの確保、②本体審査で認定されてからの付加機能評価の受審時期、③ケアプロセスの評価方法、④各施設の受審の可能性、⑤評価内容の改善要望のあり方などがあるとの説明があり、当協会としては、改訂作業の進捗状況をみながら是々非々の立場で協力していくこととなった。

**２．ホスピス緩和ケア評価指針による自己評価**

３年毎の実施を考えており、次回は2011年に行うことになるが、自己評価のケアプロセスの部分を、上記の緩和ケア付加機能評価に取り込んで行く方向にあるので、本自己評価の内容、あり方について再検討していく。

**３．遺族調査（J-HOPEⅡ）**

当調査は、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の調査研究事業に協会が協力する形で行っており、次回は2010年度に実施することになっており、宮下光令委員が所属する東北大学が事務局となり準備を進めている。

調査実施の際には、各施設における遺族リストが必要となる。遺族ケアを推進していくためにも遺族リストは必要であり、リスト作成に関するアドバイスが必要な施設に対しては、委員会が支援したいと考えている。

### ◆在宅ホスピス緩和ケア評価基準検討会

2009年７月の広島での年次大会において会員から提示された意見を受けて、基準作成を続け、このたび最終案（Ver.5.）が完成した。今後、基準に解説を加え、協会会員の診療所対象の調査結果などを資料として添付した報告書の作成に取りかかり、2010年度年次大会において配布できるよう作業を進めていく。

### ◆健康保険・介護保険検討委員会

山崎章郎理事長を本委員会の委員長とし、河　幹夫氏、矢津　剛氏、清水千世氏、田村里子氏が委員として就任し、第１回委員会を開催した。ケアの受け手側の利益、経営側の利益、両方の視点を持って活動していくこととする。まずは、①緩和ケア外来のあり方、②在宅緩和ケア推進における診療報酬の問題、③介護保険の対象や認定のあり方、④緩和ケア病棟入院料および施設基準の適正性の検討、以上の４課題に取り組んでいくこととする。

## その他の報告

**①アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワーク（APHN）に関して**

第8回を迎えたAsia Pacific Hospice Conference(APHC)が、Australian Palliative Care Association（オーストラリア緩和ケア協会）の第10回カンファレンスとの合同開催で、2009年９月２４日～２７日「Together -Cultural Connections for quality care at the End -of-life」をテーマに、西オーストラリア州パースコンベンションセンターで開催された。世界35か国から1250名が参加し、日本からは35名以上の医師、看護師、ＭＳＷ等が参加した。

本カンファレンスと並行して、APHN理事会が開催され、日本から理事として、当協会の柏木哲夫理事、恒藤暁理事の二名が選出された。

恒藤氏は、アジア太平洋地域のリサーチの責任を担うこととなった。

**②ロゴマーク使用申込み状況について**

協会の会員施設であることを明示するために、施設案内用のパンフレットやホーメページへのロゴマーク使用の希望をとったところ、９施設より申請が出された。病院の玄関に表示、パンフレットに掲載など、ロゴマーク使用状況の報告が届いている。

◀ APHC開会式

挨拶をする柏木理事 ▶

### 協会事務局からのお知らせ

**◆Eメールでの情報配信について**

協会では、正会員を対象として、迅速な情報配信が求められる場合には、Ｅメールでも連絡・案内を配信できるようにする予定です。登録アドレスを伺う文書をお送りいたしますので、ご返信下さいますようお願い申し上げます。

**◆協会ロゴマークの利用について**

正会員施設は、協会会員であることを示すために、病院パンフレットや院内の掲示などにロゴマークを使用することができます。詳しくは協会事務局までお問い合わせ下さい。使用申請書をお送りいたします。

**◆ホスピス緩和ケアに関する情報について**

協会では全国の緩和ケア病棟・チーム、また緩和ケアを提供する施設の把握に努めております。もし、新たな緩和ケア病棟の開設などの情報をお持ちでしたら、事務局までお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

# 寄　付　報　告

当協会では、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人・団体からのご寄付を受け付けており、2009年度は８件総額1,270,000円（2009年12月20日現在）のご寄付をいただきました。

### ご寄付いただいた方々

森重三也子様（大阪府）
原　知克様、淑子様（東京都）
伊藤　淳子様（U.S.A）
田中　巌様
（音楽室「ゆらぎ」主宰・東京都）
他匿名希望　４名

### ご寄付をお寄せいただいた方の声（一部抜粋）

・がんという病の末期に襲い掛かってくる痛みによって、その人の持っているその人らしさまでもが否定されるような状態は人間として耐えがたいことだと思います。しかし癌の殲滅は当分の間はまだ無理なのでしょう。二人に一人が癌になるこの時代に、ひとたび癌になっても、その人がその人らしく生きられるような。そんな医療や仕組みが早く出来ることを望んでおります。

なお、協会事務局では、「寄付のご案内」パンフレットを配布しております。パンフレットを置いていただける施設がございましたら郵送いたしますので、事務局までご連絡下さい。